

株式会社タムロン

2022年12月期 第2四半期決算説明会

日時：2022年8月8日（月）16:00～17:00

【主な質問と回答】

Q1. 下期にかけて部材のコストアップを見込んでいるとのことだが、下期は新製品投入が複数行われる時期であり、価格設定に適切に反映することで吸収可能なのではないか？

A1. 2022年発売の新製品のコストアップ分は100%ではないが価格への反映を計画している。しかし新製品は下期に順次投入されることになり、2021年発売の製品を中心に現行機種の上構成比が高いことから、吸収しきれない面がある。

Q2. 下期に部材コストの影響が大きくなるということだが、一般的には半導体不足は緩和の方向に向かっていると思う。どのような状況か？

A2. 確かに一部に半導体不足の緩和の動きはあるようだが、半導体にも種類がある。下期から来年に向けて緩和するとは考えてはいるが、当面は影響を受けるものと考えている。

Q3. 欧米の景気後退リスクへの懸念が広がっていると思うが減速感などがある地域等はあるか？

A3. 欧州では、ロシア情勢にも関連して不透明なところはあるが、販売動向の大きな悪化等の兆しは見受けられない。米国には7月初旬に訪問しディーラーともコミュニケーションを取ったが、意欲的でもあり、リスクはあるだろうがクリスマス商戦の善戦に期待しているところ。

Q4. 中国の販売状況は、4月・5月と、6月・7月以降でモメンタムはどのように改善しているか？

A4. 4月、5月は上海を中心にロックダウンの影響があり厳しい状況だったが、上海以外の地域等でカバーしそこまで大きな影響に至らなかった。6月以降も順調に推移している。

Q5. 下期計画は 1Q 時点での営業利益予想から下方修正になっているが、背景は何になるのか。

A5. 要因としては、当初計画と比べて下期に部材のコストアップが効いてきて粗利率が下がること、自社ブランドを中心に下期に新製品投入が集中し広告費、販促費が増加すること、中長期施策のための費用増を計画していること、等が挙げられる。

Q6. 2023 年の増益の確度について現時点でどのようにみているか、2023 年に向けた考え方を聞きたい。

A6. 経営の立場からは増収増益を目指しているが、下期で低下を見込む粗利率の改善等、様々な課題をどうクリアしていくかを練っているところであり、現時点では明確なことを言える段階にない。

Q7. 年間配当予想が、配当性向目標に対して少ないのはなぜか、考え方に変化はあるのか？

A7. これまでは業績の下期偏重もあり、中間配当は安定配当で据え置いていたが、今年上期が好調であったことから中間配当での増配を実施することにし、期末は据え置いたもの。下期は半導体不足、ウクライナ問題と不透明な部分が多く、現時点では配当の増配修正はしなかったが、業績向上により配当を増やしていきたいと考えており、これまでと考え方は変わらない。

<ご留意事項>

本資料は、決算説明会に出席になれなかった方々の便宜のため、参考として掲載しており、説明会でお話したことをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。